

日野伊久子  
（昭和女大）

目的 前報では、早稲田大学所蔵のアイヌ衣服63点の資料の中から、木綿衣にみられる特徴的な襦付き衣服40点について実測調査結果を報告した。今回は、木綿衣の基本形を取り上げ、構成特徴、形状、寸法、縫製技法について実測調査の結果をまとめる。

方法 調査資料の木綿衣の基本形16点について、構成特徴を記録し、形状を把握した上で計測する。計測箇所は、身丈他10項目とし、身頃の布幅の実測値も加える。縫製調査は、縫合部、縫い代の始末法、縫い糸の種類や針目数（5cmを単位とした針目数）について記録・観察し技術の巧緻性を判断する。

結果 木綿衣の基本形16点中ひとえ仕立て13点、袷仕立て3点。多種類の布を接ぎ合わせた資料もある。形状は、和服の半纏に近似し、直線裁ちで、身丈は対丈である。袖はもじり袖15点、筒袖1点。寸法は、着用者の体型によって異なり、身丈は109.4から129.0cm。布幅は28.6から34.5cm。実測値に左右差がみられた。縫製は、全て手縫いである。縫合部は、並縫い、かがり縫い、縫い代の始末は、付せ縫い、一目落としなどの手法がみられ、特に仕立て方のきまりはない。縫い糸は木綿糸を使用しているが、一部に繊維糸が観察された。針目数による縫製技術の巧緻性については、布の配色やアイヌ文様の刺しゅうの巧みさに比べ、技術の巧拙、粗密の差がみられた。